

NEWS LETTER



NO.11 2002.6.30

にほんごひろば岡本

発行：にほんごひろば岡本
〒658 - 0003 神戸市東灘区本山中町 3 - 2 - 10
Tel:078 - 453 - 5941

熱 い戦いが繰りひろげられたサッカー・ワールドカップは、私たちに爽やかな感動とさまざまな想いを残して幕を下ろしました。日韓共催の歴史的意義うんぬんはさておき、ひとつのボールを巡って一喜一憂した1カ月間は、世界をより身近に感じさせる魅力にあふれたものでした。

ここ「にほんごひろば岡本」も、連日試合の話題で大いに盛り上がり、日本チームの健闘を、韓国チームの快進撃を互いにたたえあう日韓親善の光景が数多くみられました。

また、サッカー王国ブラジルの驚異的な強さは、日本各地で働く日系ブラジル人に最高の喜びと勇気を与えてくれました。御影教室の学習者とその仲間たちとともにブラジルの優勝を祝福したいと思います。

ひろばには最近、留学生を中心とする韓国人の若い学習者が増え、様々な世代の支援者とともに、一所懸命日本語にとりくんでいます。これから先、新しい両国関係を築いていく彼らが、日本と日本人に対してどのような気持ちを抱いて帰るのか、私たちは大きな責任を担っているのだと思うと身が引き締まります。

それと同時に40年以上前、朝鮮民主主義人民共和国への帰還船で海を渡っていった中学校の同級生の面影が私



の脳裏をよぎります。

ワールドカップの閉幕とともに「インターナショナルなお祭り」がもたらした熱気は急速に冷めていくでしょうが、私たちの周囲で「日常の国際化」は継続しています。

地域の日本語教室にできることは小さなものですが、私たちは目と心を大きく開いて、日本語学習支援活動を続けていきたいと思っています。

(西村佳子)

INDEX

- 特集1 . ひろばOGその後の活躍 . . . 2
2 . ありがとう日本 林翠津さん . . . 5
支援者の紹介 . . . 3 学習者の紹介 . . . 3
学習者自己紹介 . . . 5
総会報告 . . . 7
ワークショップ報告 . . . 7
お花見ちょっとだけフォトレポート . . . 8
お国自慢レシピ(タコスの巻) . . . 6

【特集 1】 ひろばOG 勝島千晶さんのその後

先生は造船所のアイドル

NEWS LETTER No.6 で紹介した勝島さんは、昨年の 12 月から広島県沼隈町の造船所で日本語教師をしています。フィリピンからの研修生のクラス担任として、24 歳から 46 歳と幅広い年齢の学習者を相手に、泣き笑いしながら日本語を教える毎日だそうです。



家族と離れて寂しい思いをしている研修生は、明るく優しい千晶さんの笑顔に励まされ、丁寧で親切な指導に学習意欲をかきたてられたのでしょう。来日当初は元気がない暗いクラスだったのですが、今では日本語を話したくてうずうずしながら教室にやってくるし、休みの日には遠くまで自転車に乗って、みんなで日本語の腕試しに出かけるほど活気のあるクラスになりました。

もうすぐ帰国する他のクラスの研修生は、別れに弱い彼女に「先生はきっとこの前み

たいにたくさん泣くから、見送りは絶対来なくていい」とか「みんなのスーツケースに入れてフィリピンへ持って帰る」などと言っています。

このようにみんなから慕われている千晶先生ですが、ある人が故郷で待つ奥さんに「日本語の先生は娘と同じ 18 歳なんだよ」と話したため、奥さんから年齢相応(?)のプレゼントを贈ってこられたこともあったとか・・・写真のような初々しさですから無理ありませんが、笑顔の奥にしっかりした考えを秘めている素敵な女性です。

インターナショナルクラブでも頑張っています

また彼女は、神戸松蔭女子大在学中に ODA (政府開発援助) 民間モニターとしてベトナムを訪れた時の体験や、卒業後、故郷の公民館の日本語教室でボランティア講師を務めた経験などを活かして、来日している外国人と地域の子どもたちが交流できる場を作ろうと準備を進めてきました。

日本語学習を通じて親しくなったカナダ人女性の協力や、家族の支援を得て、4 月 20 日に「インターナショナルクラブ」を立ち上げ、実家の歯科医院のミーティングルームで月 2 回のペースで活動しています。「子どもたちには、世界には色々な国があり、色々な人たちがそれぞれの考えを持って生きていることを肌で感じてもらいたい」、「友だちが欲しい外国の人に、日本のことを教えるということをとおして自分の国のことも学んで欲しい」との願いをこめて、地域での活動にも意欲的な勝島さんに神戸からエールを送ります。



頑張れ！尾道向島の千晶先生！

(西村佳子)

支 援 者 紹 介

野村真由美さん

韓国語も勉強中です

私は日本語教師をめざしているので、ボランティアをしようと思っていましたが、なかなか踏み切ることができませんでした。

しかし韓国へ旅行した時にハングル文字がわからず立ち往生している私を、たくさんの方が助けてくれました。その時、日本に帰ったら私と同じように言葉がわからず困っている人の手助けをしたいと思い、去年の5月からにほんごひろば岡本でボランティアを始めました。



今年の2月まで韓国人の女性を担当していましたが、彼女が大学の受験勉強に専

念するために中断することになりました。

それから大学の授業が落ち着いた5月に、ボランティアを再開するため西村さんに電話すると「韓国人の男性が3人登録したばかりだけど、どんな人がいい？」と聞かれたので、私は思わず「カッコいい人になってください(笑)」と言ってお願いしました。そうしてすぐに、ご覧のような好青年キム・ギョッチョルさんに決まったそうです。それから1カ月半、時々韓国語を教えてもらいながら、いつも楽しく勉強しています。

乙名麻里子さん

「新しい出会い」

私は去年の11月ごろから、にほんごひろばでお世話になっています。通うのに片道1時間半という距離なのですが、毎回行くのを楽しみにしています。どうしてそんな遠いところを選んだかという、私が今、勉強している日本語教師養成学校に、

ひろば
のボラ
ンティ
ア募集
のチラ
シがあ
り、もち
ろん他
にもそ
ういっ



たところはあったのですが、なにより魅力的な神戸で日本語を教えてみたいと思ったからです。それに加えて、初めてひろばに伺った時の西村さんの親切さと、教室のアットホームな雰囲気がうれしかったからです。

私は去年の7月まで、4年間アメリカに留学していました。そこでの経験を生かし自分には何ができるのだろうか、帰国してから悩み続けて4カ月・・・日本語を外国人に教えたいという一つの目標にたどりつきました。その中で、様々な人と出会い、文化、習慣の違いを超えて理解しあいたいと思っています。

私自身、日本語はもちろん、言語を勉強するのが大好きです。今は学習者の黄泰祥さんとともに、日本語の難しさ、おもしろさを改めて感じています。私にとって黄さんは、中国語の先生でもあります。まだまだ教えることに関しては勉強中ですが、このひろばでの出会いをこれからも大切にしていきたいと思います。

学 習 者 紹 介

イゴリ・ブリヤコブさん(男性)ロシア出身

ひろばのワールドカップ・軍配はどちら？

「大男、総身に知恵が回りかね」という諺がありますが、181センチのイゴリさんには全く当てはまりません。むしろカンが鋭くて、こちらの言っていること以上に推測して応酬してくる時もあり、タジ

タジとなります。

モスクワから来日して早や6年、神戸大学大学院博士課程で経済学を研究中。早くから愛妻オレイシアさんとダーニャ坊やを呼び寄せて、神戸でマンション住まいをしておられます。(ダーニャ君の可愛らしさは、クリスマスパーティやお花見で、ひろばの皆さんのよく知るころでしょう。)

日本語はかなり流暢に話され、難しい言葉や漢字もよくご存知です。特に四字熟語や諺に関心が強く、覚えたら早速使って、周りの人をびっくりさせ、悦に入っています。



神戸市内の小学校に、年間10回くらいロシアのこ

とを話しにまわって行かれます。大きなイゴリさんが、

小さな人形マトリョーシカをとり出して話をする場面を想像すると、なかなかほほえましいですね。

昨年は宝塚国際交流協会のスピーチコンテストに出場してユーモアたっぷりに話し、地元のケーブルテレビにも登場されました。

日本語検定1級にも合格！イゴリさん、次の目標は？

私の目標は・・・何か他愛ないことで言い合いになった時、「金持ちけんかせず」と言ってさっさと帰って行ったイゴリさんに、言い返せなかった口惜しさを晴らすこと。でも本当は、イゴリさんにふさわしいお仕事が見つかることを心から願っているのです。

この口惜しさは、6月9日、われらが稲本君が晴らしてくれましたから、もう終わりにします。

(古家峰子)

マッハブバ(買合布巴)さん(女性)

中国ウィグル出身

カタカナの猛勉強中です

1月からマッハブバさんと勉強を始め、5カ月経ちました。はじめは緊張気味だった彼女もずいぶん慣れて、勉強した文型プラス漢字、絵、ジェスチャーを交えて、日常生活について色々と話してくれ



るようになりました。

ウィグルは北京まで飛行機で4時間、汽車では4日間という、世界中で海から一番遠い所だそうです。そのせいか、魚、特にお刺身は嫌いで、家では肉を使ったウィグル料理やナンを作るそうです。

勉強は、全くの初歩からのスタートでしたが、4月頃から代入練習もスムーズに進み、学習した文型を使って、自分の言いたいことが表現できるようになりました。また漢字やひらがなも良く読めるようになりました。

毎回書き取りの時、私のメモ帳を一枚ビリビリと破いて渡します。ある日、「先生が紙を破る音を聞くと、私は胸がドキドキします。」と、ジェスチャーも交えて本当に厭そうに言うので、おかしくて二人で大笑いしました。

マッハブバさんはカタカナが苦手なのです。でも今、カタカナを集中攻撃中なので、もうすぐビリビリという音にもドキドキしなくなることでしょう。

(天羽修江)



学習者の自己紹介

カラオケで日本語を勉強中

胡 春豊



私は中国の天津から来日した胡春豊です。中国では、理工系大学卒業後、日系ハイテク企業に就職し、その後米系企業にも勤務しました。技術系の仕事を通じて、知的財産権の重要性を認識し、3年前、勉強のため日本に来ました。

今年の初め、知的財産権紛争に関する研究の修士論文を完成し、現在、神戸大学博士課程1年に在籍しています。より実務的な知識を修得するために、知的財産権と関係する仕事を探しています。

企業の面接試験などを通じて、日本語の難しさを実感しています。

ストレス解消のために、団地のカラオケ・サークルに参加しました。日本で発明されたカラオケは、日本文化と深く関わっており、日本人の心を理解するには最高です。勿論、日本語の勉強におおいに役立ちます。

皆様、カラオケで日本語を勉強しましょう！現在「大河の流れ」をレッスン中です。

【特集2】

この度、NEWS LETTER でもおなじみの林翠津さんが「ひろば」から巣立ち、台湾に帰られます。そこで、林さんに日本滞在8年間の思いを記してもらいました。また、近い再会を信じています。お元気で

ありがとう 日本

林 翠津（台湾出身）

ある日、台湾のテレビに映し出された映像に心を打たれ、それが来日のきっかけになりました。その映像は日本の着物を着ている女性の凛々しさとしなやかな話し方でした（当時日本語は全くわかりませんでしたが、想像力で美しい日本語だと感じました）。

軽率な来日動機の上に滞在計画も粗いものでした。半年ぐらい日本語を勉強し、日本文化に触れたらいいと思ったからです。しかし、半年後、町に出ると日本人が使っている日本語やテレビなどの日本語は私の勉強した日本語では全く対応しきれないと感じました。それに危機感を覚え、「本気の日本生活」がスタートしました。

「本気の日本生活」

日本語プラス何かを身に付けたいと思って大学へ行くことにしました。好運にも第一希望の神戸流通科学大学に受けました。神戸に引越しの際、ちょうど阪神大震災の直後でした。関西の台湾人の先輩に案内され、家探しを始めました。一見、スムーズに物事が運んでいるようですが、大変なのは大学に入ってからです。家族の反対で日本に来たわけですから生活費や学費は自分に頼るしかないので。日本語学校の学費で長年の貯金を使い果たしたので、大学の入学金は家族に貸してもらいました。ですから、生活費や学費はバイトと奨学金でカバーするしかありませんでした。

奨学金をもらうため、いままでにない真剣さで勉強しました。授業に臨む時、目玉が飛び出す位の眼と大きい耳で先生からの情報や知識は絶対に逃がさないという勢いでした。

バイトの時も外国人だからミスすると言われないように、とにかく一生懸命働きました。当時の睡眠は毎日4～5時間でした。毎日必ず学校に行きました。あまりの勢いで行ったので、大学2年の終わりには卒業できる単位をとっていました。奨学金も無事頂きました。しかし、その年の終わりに、疲れが出たのかはしかにかかりました。

自分の可能性を確かめるために4年生の時から就職活動を始めました。4社の日系企業と1社の外資系企業を受験しました。その結果、自分の一番行きたい会社に就職できました。

「8年間の日本生活」

早いもので、来日して8年も経ちました。日本でのこの8年間は今までの人生で最高でした。たくさんの夢を実現することができ、自分に対して自信が持てるようになりました。

また、「歯が立たない」こともあると素直に認められるようになりました。しかし、ここまで来られたのは、決して私ひとりの力ではなく、わたしのそばにいてくれた友だちや先生などの励ましやアドバイス、協力などによって、この8年間で最高にしてもらいました。

いままで、たくさんの方から「GET」したものが多かったですが、これから頑張ってたくさんの方へ「GIVE」できるようにしたいと思います。

決して日本にさよならはしません。何らかの形で日本と交流したいと思っています。

何と言っても、日本が大好きなのでから。



林さん、ひろばを忘れないでね。
また、遊びにきてくださいね。

学 習 者 の ひ ろ ば

お国自慢レシピ・タコス

前号のNEWS LETTERに登場していただきましたモニカさん（宝塚スピーチ大会で大健闘）

ご主人の転勤で10月には東京にお引越しの予定です。故郷メキシコの代表的な料理・タコスの作り方を教えていただきました。写真は右上から時計回りにポテト・トマト・アボガド・タコス（中にポテトとアボガドが入っています）興味のある方、是非トライしてみてください。詳しくは、秋まではひろばの仲間ですから、直接質問してください。

《主な材料》●タコスの皮（最近はスーパーでも見かけます）

●アボガド、玉ねぎ、にんにく、コエンドロ

●じゃがいも、玉ねぎ、ほうれん草、サワークリーム

《作り方》玉ねぎのみじん切りとおろしにんにく、みじん切りのコエンドロにフォークでおさえつぶしたアボガドを加えてレモンと塩で味付けをします。

サラダ油で少し厚めの玉ねぎを色が少し変わるまで炒め、食べやすい長さに切ったほうれん草とゆでたじゃがいもを加えさらにいためます。それにサワークリームを加えコンソメで味付けをします。

と をタコスの皮で包みます。アボガドは種と一緒にまぜておくと、色が変わりません。



第3回総会の報告

2002年度第3回総会が6月1日(土) 43名(委任状も含む)の出席をもって開催されました。

2001年度の活動報告、決算・監査報告に続いて、2002年度活動方針、規約改正、2002年度予算、役員・運営委員選出の順で審議し決議、承認されました。

2002年度の活動方針として、新たに岡本教室に加え御影教室の運営が決まりました。これによってにほんごひろばのかねてからの活動方針である「東灘地域に住む日系南米人のための日本語教室」が実現化されることになりました。

規約8の改正 8-2 総会は、会員の過半数の出席をもって成立、8-3 総会の決議は、出席者の過半数が必要、が追加されました。

支援者の交通費は本年度より、半額補助となりました。

その他の活動として、ひろば主催のスピーチ大会やスポーツ交流会(ボーリング等)を催してはどうかというような活発な意見も出て、有意義な総会になりました。



第8回日本語教育ワークショップレポート

2002年6月15日(土) 神戸松蔭女子学院大学の下田美津子先生のご指導でワークショップが開かれました。

12名の出席でテーマは「敬語」と待遇表現でした。

今回のテーマに入る前に支援者が提出していた質問・疑問・不安の相談を先生と一緒に考えました。

「敬語と待遇表現」は我々母語話者でも年代・性別・環境によって考え方の違いがあり、学習者にとってどこまで必要なかを把握することの大切さを知りました。

先生がいつも言われるように、「型にはまらない教授法」を意識するよう心掛けることを学びました。

新しい支援者から活発な意見が出され、支援意欲が満ち溢れていると感じました。

今年も何回かワークショップを予定しています。みんなのひろばらしく、それぞれの悩み相談会にもなっていますので、気軽に参加してください。

「型にはまらないワークショップ」です。



フォトレポート



ちょっと？前でしたが～にほんごひろば岡本のお花見レポート～

2002年3月31日（日）芦屋川堤で「にほんごひろば岡本」のお花見交流会を行いました。今年は春の訪れがかなり早く、芦屋川の川岸は桜並木が満開でとても綺麗でした。時折吹く風に桜の花びらが散り、情緒豊かな気持ちを味わうことも出来ました。総勢 58 名の参加者で大盛会でした。



初めてお会いする人も多く、最初は物静かな方もいらっしゃいましたが、美味しいお弁当やお酒を頂いているうちに会話も弾んでいきました。あっという間に 3 時間が過ぎ、解散時刻になっていました。参加された人たちにとって楽しくて良い思い出になったことと思います。中でも、濱田さんがプロ級の写真を撮って下さり、みんな大喜びでした。

当日早朝から場所取りをしてくださった竹中さん、お弁当調達に奔走してくださった松見さん、市川さん、駅前で案内係をしてくださった橋本さん親子、本当に有り難うございました。

濱田さんの活躍に眼を奪われ、花見なのに桜の入ったみなさんの写真がありませんでした。ごめんなさい。やはり、ハナより弁当・ワインでした！



NEWS LETTER バックナンバーのお知らせ



NEWS LETTER のバックナンバーが以下のアドレスでご覧いただけます。一度アクセスしてみてください。

URL : <http://www.kabto-yama.ac.jp/hiroba/>



〔編集後記〕

暑い 1 カ月が終わり、暑い夏がやってきます。みなさんバテないように、しっかり睡眠をとってください。私は大丈夫、寝るのが趣味ですから・・・(M・I)